

日々新聞才十七輯

辰六月三日出枚

○辰五月廿六日以来江川出役の者日記抄録

一小田原勢と脱走兵と戦争の場所ハ山崎村あり小田
原より一里程有る右村の山上と脱走兵陣取り小
田原勢押寄せし山の中腹より小銃打下し積と見
受より然る小田原勢地理功者あり也へ脱走兵の
埋伏せし山上へ上り打下し也へ脱走兵敗走せり
さきとも脱走兵ハ奮戦したる也へ小田原勢討死手
負多く官軍因州先鋒深手多く長州も薄手負く由

小田原藩

奥平 兵馬

即死 名前不詳 山中 湊悴

石川将之助

三枚橋まで
帰り死に 大久保将監

隊長手負 渡辺大 允

隊長手負 吉野市太夫

手負四十人
社の内 深手十八人

大筒と引糸は敵より奪んてせし祖打
て首を取り実檢し備へたり

名前不詳 足輕

一 脱走兵討死十四五人のよし手負八人といふ事ふれども分明かりに脱走兵ハ湯本臺の茶屋へ放火して退きたり

一 右戦争場山崎村といふ所にて打死五人有之其内一人の側より裏金輪抜陣笠一ツ捨有之一人ハ平士の様子三人ハ人夫の様子紺腹掛けと着せり右のりの志めし小倉帯と人足体のもので分捕たり

一 湯本米屋門右衛門といふもの、宅にて脱走兵等人数手配と極め六十人の内三十人三枚橋へ出張残り三十人湯本へ備へ其節脱走兵の長鈴木瀧次郎より

門右衛門方へ兵糧と云付け戦争はおよひい処小田原藩奇藤門太鈴木栄太郎二人の首と門右衛門方へ持来きり折しも箱根宿へハ百人許備へかき夙祭村入生田村湯本右村へ入足と云付たり

一 小田原藩より脱走人有るより米屋門右衛門手のものより承りたり

一 長州勢畑村より間道と打越へ箱根芦の湯までの処隊長飯田竹次郎主従十二人よて廿七日朝五ツ時より小田原出立廿八日曉天まで二子山辺に潜居探索六ツ半時頃より畑村へ引取れより小頭平次郎の語

あり

一 脱走兵廿七日夜兵益と捨て尋く三嶋宿へ落行る様子あり残兵ハ箱根山中に隠居るやの趣きの処因州藩渋谷半右衛門手のもの脱走兵三人と生捕り廿七日早天より官軍諸隊繰出たり

一 畑村 畑村下 二子山 白水坂 石掛山

右五ヶ所へ脱走兵陣取今日小ぢり合ありたり

右ハ長州隊長飯田竹次郎の軍畧よて右五ヶ所へ出陣の積手配中脱走兵出張然るよ今日ハ格別の砲戦もかく遠巻きたての

一廿七日巳の上刻大久保藩小筒組のもの大砲と引き
 出陣の処右大砲一挺脱走兵へ取られたり
 一同日未下刻根府川吉濱村海辺へ脱走兵四人程立廻
 られバ長州勢半小隊出陣ありたり然る見当らば
 何へり逃去りたり
 一元箱根といふ所へ官軍出張の処右場所脱走兵より
 放火
 一今廿七日夕因州隊長の内一人銃砲底外二人深手
 付横濱へ到り療治のよし
 一備前藩深手十七人右同断横濱へ到せりとす

○官軍方よて町々へ張出の書付写

官軍兵隊之候ハ白素は軍律厳敷に仰付置いよ付乱妨
 押買等ハ決して無之筈に共末に者よ至り万一心
 得違之候有之市民共難渋之筋有之にハ早く参謀役
 所へ訴出登まもの也

五月

軍監

一山崎より三枚橋辺まで脱走兵討死十四人あり小田
 原郡方役人番非人二十四人召連死骸片付たり
 一今廿七日午時より箱根平人通路相成関所の固ハ官
 軍あり

五月廿八日

一昨夜より出張の官軍のまど下山無之夫々手分まて
山々探索のよし

一箱根関門前へ十人程脱走兵駕籠長持と持越一同巧
固々同盟の脱走兵の積よて三嶋宿より差掛り一処
長州勢関門と固居り小銃と打出し不残討取たる由
一真鶴といふ処へ仙臺會津兵来りしよし一はれ流言を
るる

一小田原侯菩提寺へ入寺恭順せしよし
右ハ城東大工町本源寺あり

一小田原勢必死の勢よて探索の処脱走兵早川米啗山
の谷間石掛山の洞へ凡廿人程潜みたる様子よ付小
田原勢凡二百人許よて山上より小銃打下し脱走兵
ハ谷間林中より打出し小田原勢討死あり少く色
めきらるる今日後と取りてハ大久保家の名折を
り連一同必死の血戦因州勢ハ心切りては傍看あり
小田原一手よて脱走兵隊長の首六級と得し其外
討取の数知まら残兵ハ相州足柄真鶴辺の山々へ敗
走のよし

一今日小田原勢ハ湯元名主福住九藏道案内よて湯元

早雲寺山頂より石掛山峯續き脱走兵の潜居を探索
骨折たるより小田原重役より九藏へ厚賞有之由
一塔の澤峯より木賀峰より備前因州の手より脱
走兵二人生捕

小田原藩討死 小野市太郎

手負 二三人

一 小田原城へ今元八日参謀方河田佐久馬登城兵益引
渡方談判あり且昨日の戦争手弱様子にて味方の邪
魔も亦も付以来出勢相断り段沙汰あり小田原
方難渋當惑の由正右衛門へ申渡たり